

ローラン・ナウリ(バリトン) Laurent Naouri, Baritone



マルセイユの国立オペラ歌手研修所とロンドンのギルドホール音楽演劇学校で学び、1992年にデビュー。以後、ヨーロッパ各地でキャリアを重ね、モンテヴェルディから現代作品までを歌いこなす、幅広いレパートリーの歌手として活躍している。

得意とする役柄には、『エフゲニー・オネーギン』のタイトルロール、『ルクレチアの陵辱』のタルキニウス、『真夏の夜の夢』のボトムなどがあり、共演した指揮者には、クリスティ、ヤーコブス、ミンコフスキ、ケント・ナガノらがいる。

さらに『フィガロの結婚』のアルマヴィーヴァ伯爵(エクサン・プロヴァンス音楽祭、東京他)、『ペレアスとメリザンド』のゴロー(ベルリン、ザルツブルク他)、『カルメン』のエスカミーリョ(英国ロイヤル・オペラ他)、『道楽者のなりゆき』のニック・シャドウ(パリ・オペラ座)等の諸役や、近年は、『ファルスタッフ』のタイトルロール、『椿姫』のジェルモンなどのヴェルディ物も歌っている。

ガブリエッラ・スボルジ(メゾ・ソプラノ) Gabriella Sborgi, Mezzo-Soprano



ミラノのヴェルディ音楽院で学んだ後、ロンドン、ルガーノ、ニース、およびパリ・オペラ座バスティーユで研鑽を積む。ウイリアム・ウォルトン財団国際コンクール、イタリアASLICOオペラ・コンクールで優勝。

レパートリーはバロックから20世紀の作曲家までと幅広いが、特にモーツアルトのオペラを得意としている。これまでの当たり役としては、まず『コジ・ファン・トゥッテ』のドラベッラが挙げられ、同役は、ミラノ・ピッコロ劇場、アイルランド・ウェックスフォード音楽祭、ミラノASLICO劇場、グシュタード・メニューイン音楽祭などで歌っている。また、『皇帝ティトゥスの慈悲』のセストを、クラーゲンフルト国立劇場(オーストリア)、バーリ・ペトルツェッリ劇場(イタリア)、同じくアンニオを、フレンツェ五月音楽祭、『フィガロの結婚』のケルビーノを、トリノ王立歌劇場や、バーリ、ヴェローナ、フレンツェ(メータ指揮)で歌っている。

森 麻季(ソプラノ) Maki Mori, Soprano



東京藝術大学、同大学院独唱専攻修了。文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞を果たす。ワシントン・ナショナル・オペラ『後宮からの逃走』でアメリカ・デビュー以来、ワシントンとロサンゼルス・オペラにおいて『リゴレット』『ホフマン物語』『こうもり』等に出演し成功をおさめる。アシュケナージ、小澤征爾、チョン・ミョンファン等の著名指揮者やウイーン・フィルのメンバー、ミュンヘン・フィル等国内外の主要オーケストラと共に演を重ねる。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇り、コロラトゥーラの類稀なる技術、透明感のある美声と深い音楽性は各方面から絶賛され、日本を代表する国際的なオペラ歌手として常に注目を集めている。2007年には、ドレスデン国立歌劇場に『ばらの騎士』のゾフィー役でデビューを飾り、同歌劇場日本公演において再演。高い評価を得た。

『椿姫』ジェルモン

ガブリエーレ・ヴィヴィアーニ(バリトン) Gabriele Viviani, Baritone 『ラ・ボエーム』マルチエッロ



イタリア・ルッカ生まれ。生地のボッケリーニ音楽院で、ファゴットと声楽を学ぶ。トレヴィーゾ市立劇場の新人コンクール「トーティ・ダル・モンテ」で特別賞を受賞。『ファウスト』のヴァランタン役でデビューした。

若くして頭角を現した彼は、すでに多くのレパートリーを誇る。国内では、ローマやパレルモで『ランメルモールのルチア』のエンリーコ、ジェノヴァで『ラ・ボエーム』のマルチエッロ、『シモン・ボッカネグラ』のパオロ、『愛の妙薬』のベルコレ等を歌い、『ラ・ボエーム』は、英國ロイヤル・オペラ、ボローニャ、ヴェローナ、ブッチーニ・フェステイバルでも歌っている。『蝶々夫人』のシャープレス役ではミラノ・スカラ座にもデビュー。ヴァレンシア等における『椿姫』ジェルモン役でも絶賛を博している。

日本においても『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』(サントリーホール)に出演。トリエステ歌劇場来日公演の『ルチア』でも大喝采を浴びた。

ガブリエッラ・スボルジ(メゾ・ソプラノ) Gabriella Sborgi, Mezzo-Soprano 『椿姫』フローラ



ナターレ・デ・カローリス(バス・バリトン) Natale De Carolis, Bass-Baritone 『ラ・ボエーム』ショナール



1983年スポレートのコンクールで優勝し、『セビリヤの理髪師』のドン・バジリオでデビュー。

これまで成功を収めた主な役柄には、『フィガロの結婚』のタイトルロール(レヴァイン／メトロポリタン・オペラ、アーノンクール／チューリッヒ歌劇場、ムーティ／ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ウイーン国立歌劇場)、『ドン・ジョヴァンニ』のレポレッロ(メータ／フィレンツェ歌劇場、Met)、『ドン・ジョヴァンニ』のタイトルロール(フランクフルト、シドニー)、『コジ・ファン・トゥッテ』のグリエルモ(フィレンツェ、グラインドボーン)のほか、ウイーンでの『愛の妙薬』のドゥルカマーラ、英國ロイヤル・オペラでの同じくベルコレなど多数あり、『ラ・ボエーム』もスカラ座等で歌っている。

2005年ナポリ・サン・カルロ劇場『ルイーザ・ミラー』、2008年ウイーン国立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』をはじめ、日本での出演も多い。

森 麻季(ソプラノ) Maki Mori, Soprano 『ラ・ボエーム』ムゼッタ



ニコラ・ウリヴィエーリ(バス) Nicola Ulivieri, Bass 『ラ・ボエーム』コッリーネ



イタリアのトレント生まれ。ボルツァーノの音楽院で学ぶ。1993年ミラノのASLICO主催のオペラ『4人の田舎者』でデビューし、1995年スポレートのコンクールで優勝。

国内では、ミラノ・スカラ座やトリノ王立歌劇場をはじめ、フィレンツェ、パレルモ、ヴェネツィア、ボローニャ、ジェノヴァ、ナポリ、トリエステ、ローマ、ペーザロなど大半の劇場に出演。海外でも、ザルツブルク音楽祭、バルセロナのリセウ劇場、ウェルシ・ナショナル・オペラ、エディンバラ音楽祭、アン・デア・ウイーン劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭、グラーツ歌劇場、ハンブルク国立歌劇場など多くの舞台に出演している。

共演した主な指揮者は、アバド、アーノンクール、ガッティ、ハーディング、ノセダ、ゼッダ、ルイジ、メータなど。

2006年には、モーツアルト作品の演奏に対して、イタリア音楽評論家協会から与えられる権威ある賞「フランコ・アッピアーティ賞」が贈られた。